

子ども教育 通信

先輩たちの 文化活動FILE!



水彩色鉛筆を使って、
繊細な色の表現に
こだわりました。

子ども教育学科2年
高岡 志帆 | 丸岡高校出身 |

将来、子どもたちに、
ものづくりの楽しさを
教えてあげたいです。

子ども教育学科3年
網谷 早穂子 | 羽水高校出身 |

絵本という、
ひとつの形を作り上げる
達成感が得られました。

子ども教育学科2年
山崎 真純 | 金津高校出身 |



先輩や先生と協力して、 地元の伝承を描いた絵本を制作。

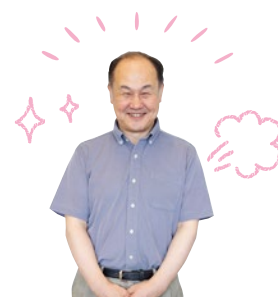
子ども教育学科の学生の中には、多様な文化活動を行う先輩たちがいます。
今年の3月には3名の学生が、先生や上級生と共に、越前和紙物語の絵本を完成させました。

中心となって活動した学生3名は、卒業生が描いた下絵への着色を担当。物語の空気感を伝えるために、表現方法や画材の使い方を工夫し、思考をめぐらせながら制作に励む姿が印象的でした。

本活動は、学生にとって、地域の歴史・産業への理解を深める機会になったと思います。また、教育現場で頻繁に用いられる絵本の制作工程について学んだことは、将来教育者・保育者として働く際に活きてくるはずです。

2018年10月から2019年3月にかけて、学生と共に絵本を制作しました。本活動の目的は、子どもたちに地域に伝わる和紙の文化を知ってもらうこと。設置先として想定したのは、幼稚園や保育園、小学校、図書館です。絵本の物語は、越前和紙に関する伝承を再構成して作り上げています。悲しみの漂う伝承の結末をハッピーエンドに変え、絵本という体裁で、子どもたちに楽しみながら学んでもらえるようにしました。

地元の文化を知り、
絵本について考える機会に。



子ども教育学科長
伊東 知之 教授

子ども教育学科 地域プロジェクト！

ポルトガル語講座

保育者及び学生のための
ポルトガル語入門講座

ー越前市における多文化共生保育を考えるー

保育園や幼稚園でも国際化が進む今日。ポルトガル語圏であるブラジル人が、外国人の多くを占める越前市の現状に合わせ、
本学では学生や現職の保育者に向けて講座を開講しました。昨年度に続き、今年度も行っています。

国際化する 保育の現場のために、 母校ができること。

越前市内の保育園や幼稚園で、外国人
の子どもたちが増加している現状に合わせ、
ポルトガル語講座を開講しました（2018年
度、仁愛大学学長裁量経費事業および仁
愛大学・越前市戦略的連携PT事業に採
択）。講座には学生の他に現職の保育者も
参加し、保育の現場に特化したポルトガ
ル語の基礎、ブラジルの歴史や文化、習
慣などを学びます。ブラジルについての理
解が、他文化に寄り添う姿勢となり、子ど
もや保護者の安心につながると考えま
す。



学生と保育者たちが語り合う場として“交流会”も実施。



状況を示す絵とポルトガル語が書かれた
「絵カード」は、教材の1つ。



講師は、越前市職員のハマザキ・タカノ・アドリアナ・エイコ氏と
金馬弘和氏。

保育者として働く卒業生も、 本講座に参加。

子どもや保護者とともに会話ができるようにな
りたいと思い、参加しました。コミュニケーション
の成長段階にある子どもたちにとって、ス
ムーズに会話ができる環境は非常に重要です。
保護者と深い信頼関係を築くためにも、講座
で得られた言葉と知識を役立てたいです。



越前市の保育士を目指す在学生にとって、貴重な学びの場。



子ども教育学科4年
酒井 龍貴
| 武生東高校出身 |

交流会では現役保育士の先
輩たちから、貴重なお話を聞く
ことができました。現場では、
外国人の先生との助け合いが
重要だと感じました。



子ども教育学科4年
嶋崎 志保
| 武生高校出身 |

言葉のみならず、文化や習慣
を学ぶことも、子どもや保護
者とのコミュニケーションにとっ
て大切だと思いました。



子ども教育学科4年
永宮 佳奈
| 武生高校出身 |

実習に行った保育園でも、ブ
ラジル人の子どもたちと対話
するための工夫が見られまし
た。今回、現場で活かせる知
識をさらに身につけられました。